

(3) ヤングケアラー調査結果

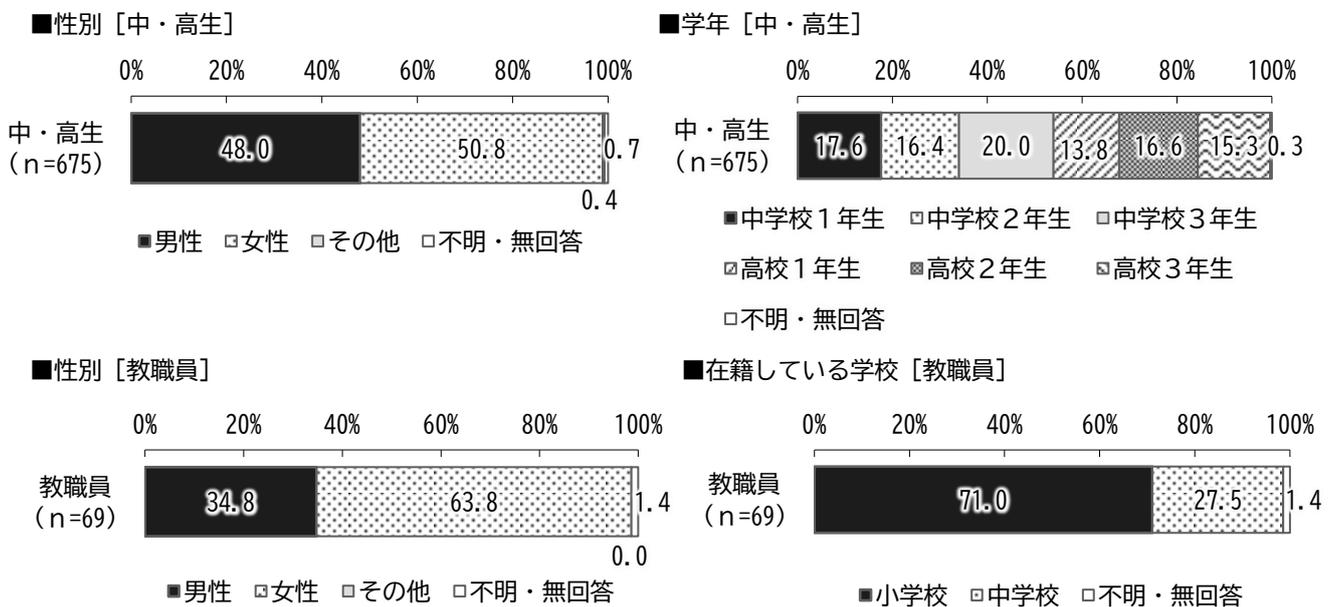
※ヤングケアラーとは、「本来、大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、こども自身がやりたいことができないなど、こども自身の権利が守られていないと思われるこども」のことです。

※グラフ中の「中・高生」は「中学生・高校生対象調査」を、「教職員」は「教職員対象調査」を簡略化したものです。

① 回答者の属性

○中・高生の回答者の性別は、「男性」が48.0%、「女性」が50.8%、学年は、『中学生』（中学校1年生～中学校3年生の合算）が54.0%、『高校生』（高校1年生～高校3年生の合算）が45.7%となっています。

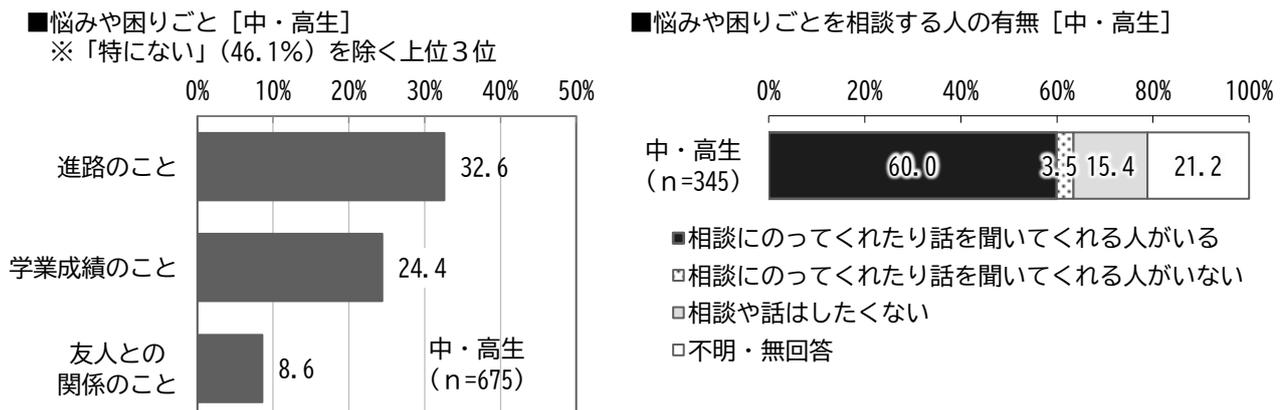
○教職員の回答者の性別は、「男性」が34.8%、「女性」が63.8%、在籍している学校は、「小学校」が71.0%、「中学校」が27.5%となっています。



② ふだんの生活について

○悩みや困りごとは、「進路のこと」が32.6%と最も高く、次いで「学業成績のこと」が24.4%となっています。

○悩みや困りごとを相談する人は、「相談にのってくれたり話を聞いてくれる人がいる」が60.0%と最も高い一方で、「相談にのってくれたり話を聞いてくれる人がいない」が3.5%、「相談や話はしたくない」が15.4%となっています。



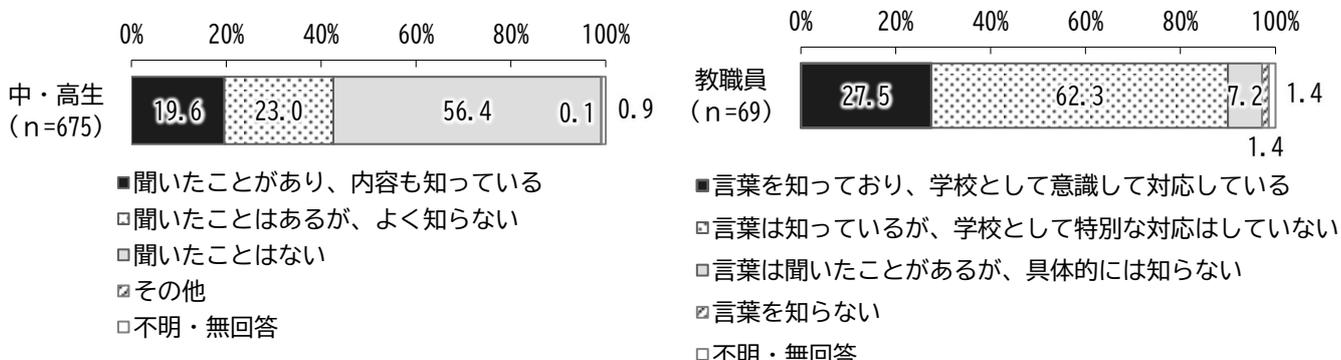
③ ヤングケアラー*について

○「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、中・高生では「聞いたことはない」が56.4%と最も高く、「聞いたことがあり、内容も知っている」は19.6%となっています。教職員では「言葉は知っているが学校として特別な対応はしていない」が62.3%と最も高くなっており、『知らない』（「言葉を知らない」+「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」）が8.6%となっており、「ヤングケアラー」についての周知啓発をしていく必要があります。

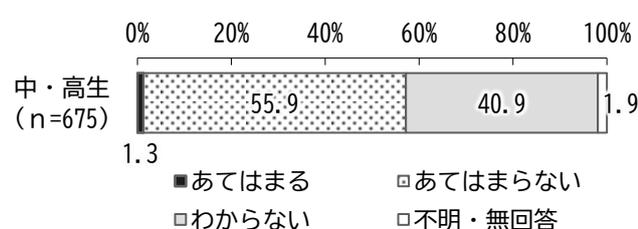
○ヤングケアラーにあてはまるかは、「あてはまる」が1.3%となっている一方で、家族の中でお世話をしている人がいるかは、「いる」が9.3%、教職員が認識しているヤングケアラーだと思われるこどもが「いる（いた）」が33.3%と、自身がヤングケアラーだと認識しているこどもとそうでない潜在的なヤングケアラーも一定数存在していることがうかがえます。

○家族の中にお世話をしている人がいると回答した方のお世話を必要とする人は、「きょうだい」が33.3%と最も高く、次いで「母親」が25.4%となっています。

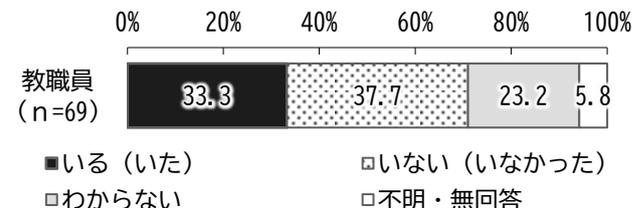
■「ヤングケアラー」という言葉の認知度 [中・高生] [教職員]



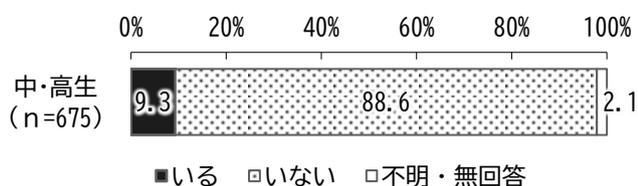
■回答者自身がヤングケアラーにあてはまるか [中・高生]



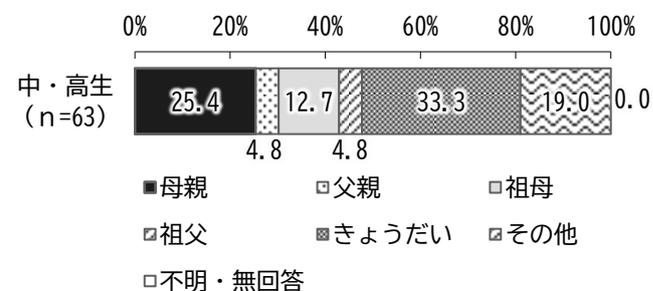
■ヤングケアラーだと思われるこどもの有無 [教職員]



■家族の中にお世話をしている人がいるか [中・高生]



■お世話を必要とする人 [中・高生]

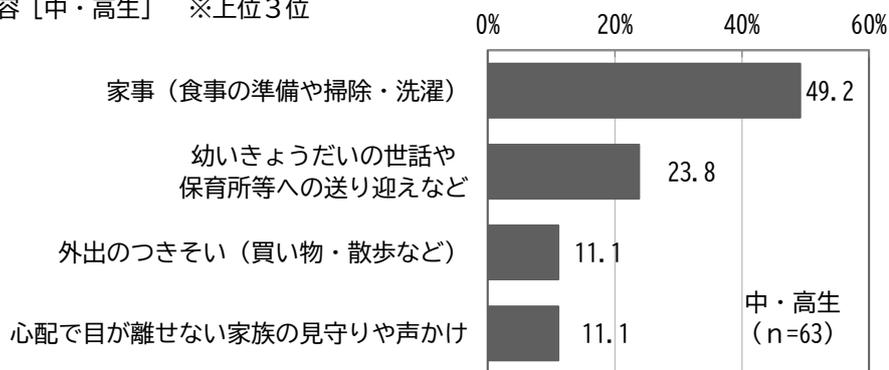


○家族の中にお世話をする人がいると回答した方のお世話の内容は、「家事（食事の準備や掃除・洗濯）」が49.2%と最も高く、次いで「幼いきょうだいの世話や保育所等への送り迎えなど」が23.8%となっています。

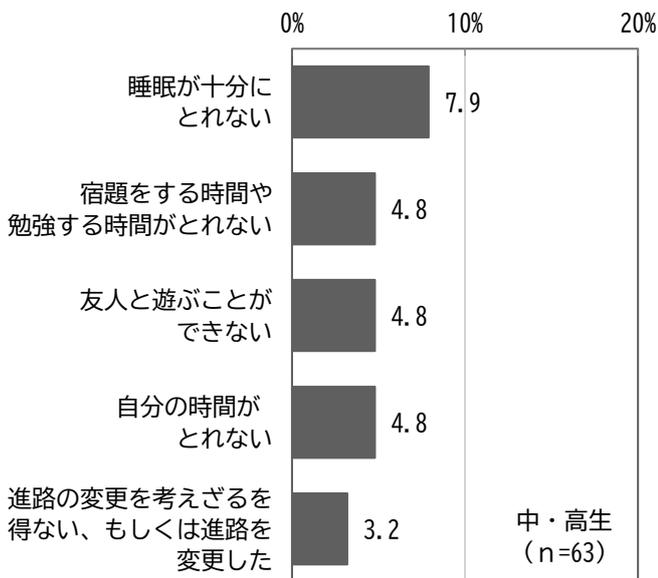
○家族の中にお世話をする人がいると回答した方のお世話があることでの困りごとは、「睡眠が十分にとれない」が7.9%と最も高く、次いで「宿題をする時間や勉強する時間がとれない」「友人と遊ぶことができない」「自分の時間がとれない」がそれぞれ4.8%となっています。

○ヤングケアラーだと思われる児童生徒の学業や生活への影響は、「精神的な不安定さがある」が52.2%と最も高く、次いで「宿題や持ち物の忘れ物が多い」が30.4%となっています。睡眠時間や宿題、勉強をする時間がとれないなど時間の制約により、精神的負担や期限の遅延など学業、生活の影響につながっていることがうかがえます。

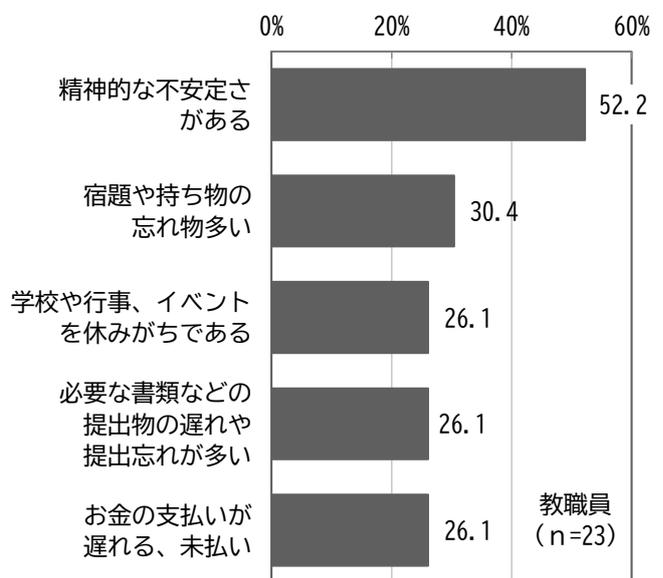
■お世話の内容 [中・高生] ※上位3位



■お世話があることでの困りごと [中・高生] ※「特になし」を除く上位3位



■ヤングケアラーだと思われる児童生徒の学業や生活への影響 [教職員] ※上位3位



○家族の中にお世話をする人がいると回答した方のお世話の悩みを相談したことの有無は、「ある」が15.9%、「ない」が74.6%となっています。

○相談したことがないと回答した方の相談していない理由は、「誰かに相談するほどの悩みではない」が70.2%と最も高く、次いで「相談しても状況が変わるとは思えない」が17.0%となっています。

○家族の中にお世話をする人がいると回答した方が必要とする支援は、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「わからない」がそれぞれ7.9%と最も高く、次いで「家族の病気や障害、ケガのことなどについてわかりやすく説明してほしい」が6.3%となっています。

○ヤングケアラーを支援するために必要なことは、「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」がそれぞれ65.2%と最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が62.3%となっています。

